

新しい文化財が仲間入り～令和4年度鹿児島県指定文化財～

文化財課

令和4年度県指定文化財

令和4年4月26日に、県指定文化財として7件を指定しましたので紹介します。これで、県指定文化財は合計318件になります。

有形文化財（3件）

さいとく じ さんもん しやうろうつき
西徳寺山門（鐘楼付）

阿久根市脇本の西徳寺にある大正2（1913）年に建設された二重二層の山門です。本寺では「楼門」と呼ばれています。彫り物などの各部の細部意匠も優秀であり、二層目を鐘楼とする県内唯一の楼門形式である点で貴重です。



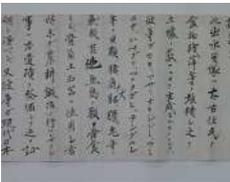
さんじゆうろつ か せん え へんがく
三十六歌仙絵扁額

三十六歌仙とその和歌が記された歌仙絵の扁額で、山部赤人を除く35枚が現存しています。三十六歌仙絵扁額として制作年代も古く（1577年）、天正年間に地方へと伝播した狩野派と推測される絵画としての注目をされます。また島津家と近衛家との交流を裏付ける歴史資料としても非常に重要です。



いずみかいづかしゆつど ひん つけたり しよかん
出水貝塚出土品 附 書簡

令和3年4月23日指定の「出水貝塚出土品」に、今回、土器、石器及び貝製品合計958点及び大正9（1920）年の発掘調査を指揮した研究者の書簡を追加するとともに、名称を変更しました。



史跡（3件）

せいなんせんそう たかくまやま こ せんじよう
西南戦争 高熊山古戦場

高熊山古戦場は、明治10（1877）年2月に勃発した西南戦争における人吉・大口方面の戦いでの主戦場の一つです。

発掘調査によって、堡壘跡の構造や銃弾・薬莖等が確認され、文献記録と調査成果がおおよそ一致するなど、西南戦争の状況を具体的に残す遺跡として貴重です。



トマチン遺跡

伊仙町に所在する弥生時代前期から中期にかけての遺跡です。発掘調査によって、約2,400年前から2,000年前の、特異な形態の石棺墓や複数の墓を礫で覆うことで墓域を示す特徴的な墓制が確認されたほか、九州以北との関係性を示すヒスイ製品などが出土しました。奄美群島の先史時代の墓制と文化交流の実態を理解する上で不可欠の遺跡です。



ぎおんの すだいばあと
祇園之洲台場跡

祇園之洲台場跡は、第11代薩摩藩主島津斉彬が嘉永6（1853）年に築造した砲台です。藩が西欧の軍事



・科学技術を積極的に導入する契機となった薩英戦争で実戦に使用された台場であり、遺構の残存状況が良好であることから貴重な遺跡です。

天然記念物（1件）

すわのせじま
諏訪之瀬島ナベダオのツクシヤマザクラ群

諏訪之瀬島には、ヤマザクラの変種ツクシヤマザクラの個体群が存在します。特に、海拔約300メートルに生育する根回り5.4メートルの巨木が「ナベダオの山桜」として知られており、倒伏した根元から枝分かれする独特の樹形は圧巻です。種の南限であるにも関わらず、比較的多くの大木を含み、自然個体群として貴重なものです。

